

シンポジウム記録 スサビノリの持続的生産への挑戦

I-5. 有明海におけるノリ養殖の現状と課題

横尾一成^a

佐賀県有明水産振興センター

I-5. Current situation and problems of
Nori mariculture in Ariake seaKAZUNARI YOKOO^a

Saga Prefectural Ariake Fisheries Research and Development Center, Ogi, Saga 849-0313, Japan

1. 有明海におけるノリ養殖の現状

有明海では明治維新前から熊本地方でノリ養殖が試みられ、現在では沿岸4県で支柱式と浮流式の種類別の養殖方法によって全国の約6割を生産する一大産地となっている。

2012年度の有明海沿岸4県のノリ養殖の現状について、経営体数、施策柵数は佐賀県が949経営体、約31万柵、福岡県が706経営体、約20万柵、熊本県が435経営体、約19万柵、長崎県が22経営体、約0.4万柵となっている。また、生産枚数、平均単価は佐賀県が約21.4億枚、平均単価9.89円、福岡県が約13.8億枚、平均単価9.54円、熊本県が約9.7億枚、平均単価8.25円、長崎県が約0.2億枚、平均単価7.14円となっている。いずれの県においても経営体数は減少傾向にあり、生産枚数はある程度安定しているものの、単価が下がり、生産コストが増加している。

2. 有明海におけるノリ養殖の問題点と課題

有明海の近年のノリ養殖における問題点は、1) 環境変化、2) 色落ち、3) 価格の問題、などがあげられる。ここでは4県の取組みとともに佐賀県を事例として述べる。

1) 環境変化：ノリ養殖における採苗時期（10月）の水温上昇が生産に大きな影響を及ぼしており、¹⁾近年では採苗日を1潮汐遅らせることによって採苗をより環境条件の良い時期に実施するなど4県連携して取組ん

でいる。また高水温対策としての耐性品種の作出に取組んでおり、いくつかの品種が種苗登録されている。佐賀県では高水温耐性品種を3品種作出しており、県の奨励品種として使用されている。

2) 色落ち：被害の大小はあるものの、毎年、いずれかの海域で発生しており、珪藻赤潮が原因の1つとなっている。²⁾そのため赤潮の発生予察や色落ちの進行予測を行い、養殖スケジュールや摘採計画、栄養塩添加の検討に活用するために原因珪藻類の生理・生態に関する研究が行われている。³⁾また、珪藻類の発生状況の把握については、各県の調査結果を随時共有するなど連携している。

3) 価格問題：価格の低迷は、景気・消費減退などの要因があるが、現行の乾海苔の官能検査⁴⁾で「美味しいノリ」が高く評価されていないため、生産者の「美味しいノリ」づくりの妨げになり、その流通量の減少も1つの原因ではないかと考えている。そのため、佐賀県ではノリの「美味しさ」を短時間で評価する手法の確立が必要と考え、現在、取組み始めている。

また、生産コストを下げるため、効率化と高品質を両立させることが重要と考え、効率の良い養殖方法についても検討している。

4) その他：各県では育苗期のノリ芽の流出やカモによる食害などの様々な課題に取り組んでいる。

文 献

- 1) 川村嘉応, 久野勝利. 高水温年における採苗日決定に関する一考察—平成17年を事例として—. 海苔と海藻 2006; 71: 1-8.
- 2) 首藤俊雄, 松原 賢, 久野勝利. 有明海の栄養塩環境とノリ養殖. 海洋と生物 2009; 181: 168-170.
- 3) 松原 賢, 横尾一成, 川村嘉応. 有害珪藻 *Asteroplanus karianus* の有明海佐賀県海域における出現動態と各種環境要因との関係. 日水誌 2014; 80: 222-232.
- 4) 工藤盛徳. 乾海苔検査合理化に向けての取り組み. 海藻資源 2009; 20: 30-46.

^a 現所属：佐賀県水産課 (Saga Prefectural Fisheries Division, Saga, Saga 840-8570, Japan)